

仮設入居^{開始}で行政の食料供給が打ち切りに“お渡し会”に
長蛇の列

避難生活の皆さん

どう命をつないだらいいのか

応急仮設住宅の入居開始とともに、災害救助法にもとづく行政の食料供給が各地で打ち切れ、“食糧難民”のような事態が広がりつつあります。

能登町は避難所廃止を展望し、避難所への食料供給を4月末に打ち切り。珠洲市は「今後、仮設住宅の完成が進むことや、気温の上昇による食中毒リスクが高まることから、5月14日(火曜日)を目途に、弁当の配布は避難所に避難されている方のみとします。ご自身で調理ができる方、買い物に行くことができる方は、自立した生活に戻

していきましょう。」(珠洲市ホームページ)などと“自立”を強調。輪島市は3月から自主避難所への供給をとりやめました。住民からは「避難所の閉鎖で、泣く泣く壊れた自宅に戻ったが、どうやって命をつなげばいいのか」との“叫び”があがっています。

センターが各地で実施している食料等の『お渡し会』には、どこでもたくさんの避難者が詰めかけています。4月29日、金沢市の二次避難者向けにおこなった『お渡し会』では、SNS上の告知のみでしたが、200人を超す皆さんが開会を待って列をなしました(写真上)。

命をまもる おコメ、水、レトルト、カップ麺、野菜ジュース
食料をお寄せください!!

助けを求める住民が多く、支援センターの物資不足は深刻です。食糧支援を心から訴えます。



まだまだ

仮設での生活も始まり

支援物資が必要

です

ご支援よろしくお願いします。

支援物資は直接に共同支援センターに送っていただくと助かります。

支援物資と募金のご協力ありがとうございました！

5月2日(木)～5日(日)まで活動しました。

◇仮設住宅へ連日要望聞き取りと物資の届け活動

奥能登は壊滅的な被害、復興遅々、国・県無策



4カ月たっても崩壊した住宅がそのままに
(輪島市内)



漁港と海岸線が隆起した輪島名舟集落
(御陣乗太鼓発祥の地)

次回の支援日程

5月19日(日)～5月22日(水)

(3泊4日の計画です)

2回目の能登半島地震被災者支援ボランティア活動に参加してきました。任務は、新しくできた仮設住宅の入居者へ救援物資のお届けと行政などへの要望を聞く活動でした。

羽咋市内の被災者共同支援センターから物資を積み、のと里山海道を使って輪島に向かいました。この道路は途中から崩落や隆起により下り方向だけの規制道路になります。3時間をかけて輪島市内に入りました。中心部から離れた町野の仮設住宅までは、県道や市道はいたるところがけ崩れや道路の崩壊で、最近車が通れるようになりましたが、まさに陸の孤島だったそうです。集落の中心部の住宅がつぶれ崩壊している家が軒並みの状況でした。どこでも支援物資の提供に感謝されました。3日間で6カ所の仮設住宅を回りました。

奥能登は壊滅的な被害状況なのに、4カ月たっても復興の対策や手だては遅々として進んでいないというのを感じました。ライフライン(道路、水道)の遅れが大きいのです。国、県など行政の政策実行の策が無いようです。

共同支援センターは、全国からの支援(ボランティア、支援物資)で運営していますが、まだまだ、ボランティアも支援物資も足りません。更なる支援の声を広げてください